

第58回 The 58th Congress of the Kinki Physical Therapy in NARA

近畿理学療法学会大会

奈良

プログラム集

会期 2019年1月20日(日)

会場 奈良県文化会館

大会長 石橋 睦仁 高の原中央病院

主催 公益社団法人
日本理学療法士協会 近畿ブロック

担当 公益社団法人
奈良県理学療法士協会

理学療法士の実践力

～これから求められる実践力と課題～

大会長挨拶

第58回近畿理学療法学会を 開催するにあたって

第58回近畿理学療法学会

大会長 石橋 睦仁

高の原中央病院



第58回近畿理学療法学会を平成31年1月20日(日)に奈良県文化会館で開催するにあたり、ご挨拶申し上げます。

まず会期について、例年11月頃の開催となっていました。日本理学療法士協会分化学会の同時期開催が多く予想されるため、近畿ブロックでの会議にて、しばらく1～3月での開催で経過を見ていくこととなりました。例年より変更になりましたこと、お詫び申し上げますとともにご理解をいただきたいと思います。

次にテーマについて、前回、奈良での第52回大会を「理学療法士の自覚」～期待に応えられる知識と技術と人間性～で開催してから6年が経過しました。現在、我が国は世界に類のない超高齢化、少子化が進み、今後、人口は減少、特に生産年齢人口の減少は大きな問題となっており、これらへの対応については世界から注目視されています。その施策として地域包括ケアシステムが推進、整備されつつある、情勢の折、今後20年、30年先の将来を見据えた中で、我々理学療法士に“求められるもの”は何か、どのような“実践力”が必要なのかを共に考えられる機会になればと思います。今回のメインテーマを「理学療法士の実践力」～これから求められる実践力と課題～としました。

内容については、基調講演、シンポジウム、教育講演、一般演題142演題(口述24・ポスター118)、倫理関連(セミナー・展示)を予定しています。

基調講演は、(公社)日本理学療法士協会会長の半田一登先生を講師としてお招きして、本大会のテーマと今回の医療介護報酬の同時改定からより具体的に見えてきた課題、取り組んでいかなければならない事についてお話していただく予定となっております。

シンポジウムについては、地域包括ケアシステムが進んでいく中で、理学療法の実務的ハンズオンアプローチ以外に、マネジメント的な関わり的重要性がクローズアップしており、実践的に活動されている先生方をお招きして、テーマを「理学療法士に求められるハンズオン・アプローチ」として、我々が今後様々な領域で活動していく中で、手技的以外に求められているものとは何か、課題は何かを皆様と一緒に考える内容となっています。

教育講演については、がん、神経系、運動器系、集中治療、障がい者スポーツ、生活支援のそれぞれの領域において、活躍されている先生方より、先進的、実践的内容とテーマを盛り込んだ内容をお話ししていただきます。

それから、最近報道等でも取り上げられている、理学療法士の倫理的問題に関して、近畿ブロックの担当者会議にて近畿での啓発や取り組みを行っていくこととなりました。今回は、セミナーを「精神科医から見たパワーハラスメント」～被害者と加害者にならないために～をテーマとして、奈良県総合医療センター精神科部長の上村秀樹先生を講師にお招きしてお話していただきます。それと合わせて、啓発的な展示ブースを設置します。今一度我々の倫理的課題について、周知していただける機会となればと思います。

非常に寒い時期の開催となりますが、熱のこもった、皆様方の今後の活動のお役に立てる内容となりますよう、奈良県理学療法士協会会員一同、精一杯の準備と当日は暖かくお迎えしてまいりたいと思います。

ぜひ多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ご参加の皆様へ

本大会は、会員証(右図参照)による会員証明・参加受付・ポイント管理を導入しております。

当日は忘れずにお持ち下さい。

※楽天カードではありません。

事前申込の方は、大会当日会員証をカードリーダーにかざして受付完了となります。



1. 参加登録

参加登録費	参加費	事前申込
近畿ブロック理学療法士会員	3,000円	2,500円
日本理学療法士協会会員	3,000円	不可
他職種会員(医療・福祉関係会員)	3,000円	不可
会員外	8,000円	不可
学生(大学院生は除く)	500円	不可

- ・近畿ブロック理学療法士会員の皆様には事前申込を推奨しております。
- ・事前申込は、近畿ブロック理学療法士会員(大阪・京都・滋賀・奈良・和歌山・兵庫)のみとなります。日本理学療法士協会指定クレジット払い(楽天カードのみ)による登録となります。
- ・事前申込完了後は、いかなる理由があろうともキャンセルはお受けできません。
- ・当日申込は、現金支払いのみの取り扱いとなります。
- ・日本理学療法士協会会員・他職種会員・学生の方は当日会員証・学生証を提示して下さい。
- ・協会指定クレジットカードは楽天カードです。その他のカードは使用できません。楽天カードは、協会ホームページよりお申し込み下さい。

2. 参加受付について

施設	受付場所	時間
奈良県文化会館	国際ホールロビー 1F エントランスホール横	9:00～

- ・専用受付にて、参加費の支払後、参加登録費受領証を兼ねたネームカードをお渡しします。
- ・参加登録費受領証は再発行出来ません。大切に保管して下さい。

3. 事前申込締切り(近畿ブロック理学療法士会員のみ)

支払方法	申し込み期間
日本理学療法士協会指定クレジットカード	2018年10月1日(月)～12月28日(金)

4. 事前申込方法(近畿ブロック理学療法士会員のみ)

日本理学療法士協会指定クレジットカード払い(楽天カードのみ)

- ・インターネットでのオンライン登録になります。事前参加登録よりお申込み下さい。
- ・事前申込には、E-mail アドレスの登録が必要です。
- ・オンライン事前申込完了後、日本理学療法士協会よりご登録 E-mail アドレスへ受付完了のメールが送信されます(送信には手続き上時間を要する場合がございます)。このメールは、参加登録の事前申込みを証明するものとなりますので、当日まで大切に保管して下さい。
- ・決済状況はマイページよりご確認下さい。

事前申込に関するお問い合わせは

日本理学療法士協会 お問い合わせフォーム (<http://www.japanpt.or.jp/inquiry/>)

よりお問い合わせ下さい。

5. 生涯学習ポイント

受付で会員証をかざすことにより、ポイントが自動管理されます。マイページへの反映は大会終了後となります。

6. 新人教育プログラム単位認定

本学術大会では下記教育セミナーへの参加で新人教育プログラムの単位が認定されます。

各会場入口付近に認定専用受付を設置しております。

単位認定受付は教育セミナー開始40分前からセミナー開始10分前までとなります。

ただし、教育講演1及び2に関しては、大会受付後から講演開始までとなります。

○教育講演1：C-2運動器

講師：橋本 雅至(9:20～10:20)

○教育講演2：C-1神経

講師：信迫 悟志(9:20～10:20)

○教育講演3：C-3内部障害

講師：城戸 顕(13:00～14:00)

○教育講演4：C-2運動器

講師：片岡 正教(13:00～14:00)

○教育講演5：C-3内部障害

講師：飯田 有輝(15:20～16:20)

○教育講演6：C-5地域

講師：尾川 達也(15:20～16:20)

○シンポジウム：C-4高齢者

講師：野添 匡史・今田 健・石垣 智也(14:00～15:20)

7. 託児施設について

託児施設を設けます。ご希望の方は、託児のご案内 (<http://kinki58.umin.jp/takuji.html>) をご覧の上、お申込み下さい。

8. 会場内でのカメラ・ビデオ撮影・録音について

会場内でのカメラ・ビデオ撮影(カメラ付き携帯電話を含む)・録音などは、講演者や発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のため禁止させていただきます。

9. 昼食について

会場内は飲食禁止となっております。会場周辺の飲食施設をご利用ください。

10. その他

- 各会場への入場の際には、必ずネームカードの入ったホルダーを首から下げ、確認できるようにして下さい。
- ネームカードの確認できない方は会場への入場をお断りします。
- 会場内での呼び出しはできません。
- 会場内では携帯電話など音の出る機器は必ず電源を切るかマナーモードでご使用下さい。プログラム中の通話は禁止させていただきます。
- 緊急・非常時に備えて必ず各自で非常口の確認をお願いします。
- 会場内は全室禁煙となっております。喫煙を希望される場合は、1階東側入口付近に「喫煙コーナー」がございますのでご利用下さい。
- ゴミは各自でお持ち帰り下さい。
- クロークはございません。コインロッカーをご利用下さい。

諸会議予定

平成31年1月19日

14:00～	士会長・事務局長会議	特別集会室
	学術局長会議	第1会議室
	社会局長会議	第2会議室
局長会議終了後	全体会議	第3会議室

平成31年1月20日

12:00～	連盟会議	第1会議室
12:30～	災害担当会議	第2会議室
	倫理担当会議	第3会議室

座長・演者の皆さまへ

口述発表について

演者へのお願い

1. 演者は、総合受付(国際ホールロビー1F エントランスホール横)終了後、演者受付(会館2F 特別集会室)で登録後、セッション開始30分前までにデータを発表用コンピュータに保存して下さい。
2. 演者は、当該セッション開始10分前までに「次演者席」に着席して下さい。
3. 演者や所属に変更がある場合には、演者受付に申し出て下さい。
4. 発表時間は7分以内、質疑応答は3分以内で(セレクション演題は発表8分以内、質疑応答5分以内)時間設定しています。スライド操作は発表者自身で行って下さい。
5. 発表の内容は抄録と相違のないようにお願いします。
6. 発表中は緑色のランプが点灯しており、終了1分前に黄色のランプで合図し、終了時に赤色のランプで合図致します。赤色ランプの合図で速やかに発表を終了して下さい。
7. 発表は Windows コンピュータを使用し、Macintosh はご使用になれません。コンピュータは大会側にて準備致します。大会側で使用する OS は Windows10、プレゼンテーションソフトは Microsoft PowerPoint 2013です。アニメーション、動画は使用できません。静止画は JPEG 形式を使用して下さい。データは CD-ROM(※ CD-RW 不可)、USB メモリのいずれかのメディア(記憶媒体)でお持ち下さい。他のメディアはご利用できません。発表用コンピュータに保存したデータは発表後に消去します。

座長へのお願い

1. 座長は担当セッション開始時刻の30分前までに総合受付(国際ホールロビー1F エントランスホール横)終了後、座長受付(会館2F 特別集会室)にて登録を済ませ、開始10分前までに「次座長席」にお着き下さい。
2. 担当セッションの進行に関してはすべて座長に一任致します。必ず予定時間以内に終了していただくようお願いします。なお、質疑応答はできる限り一演題ずつに対して進行していただきますようお願いします。
3. 不測の事態にて、座長の職務が遂行不可能であると判断された場合は、速やかに座長受付までご連絡下さい。
4. 発表の内容が抄録と大幅に異なる場合は、その場で厳重な注意を行っていただくとともに、建設的・指導的にセッションを進行していただきますようお願いします。

質疑応答について

質疑応答では、座長の指示に従って活発なご討議をお願いします。なお、質問をする場合には必ず所属と名前を告げ、簡潔明瞭に行って下さい。

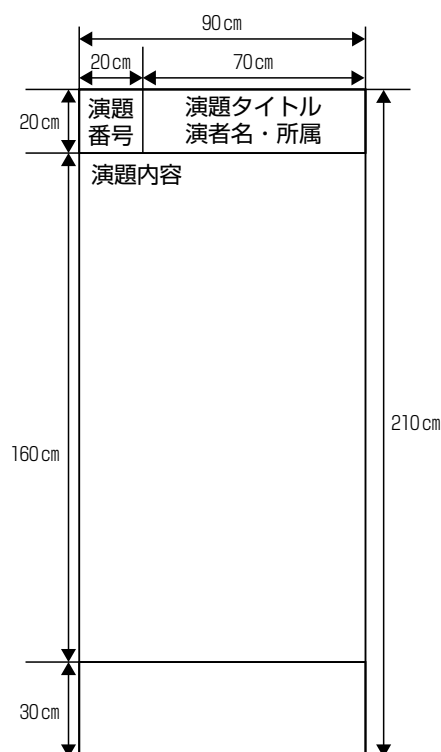
ポスター発表について

演者へのお願い

1. 演者は、総合受付(国際ホールロビー1F エントランスホール横)終了後、ポスター受付(会館2F 展示ロビー1)にて受付を済ませ、12:10までにポスターを所定の場所に貼付して下さい。
 - ・ポスター掲示には、ポスターパネルと画鋏を用意致します。
 - ・掲示はパネルの横90cm×縦160cmの範囲とします。

- ・パネル左上に演題番号を大会側で用意致します。
その右側に縦20cm×横70cmのサイズで、演題
タイトル・演者名・所属を表記して下さい。
- ・下から30cmは見えにくいいため、使用しない
ことをおすすめします。

2. ポスター撤収は16:00～16:20に行ってください。
3. 該当セッション開始の10分前までに、ポスター
の前にお越し下さい。不測の事態で発表時間に間
に合わない場合は、速やかに演者受付までご連絡
下さい。万一、ご連絡のないまま時間までに来ら
れない場合は、発表を放棄したものと判断します
のでご了承下さい。
4. 発表時間は4分以内、質疑応答は3分以内としま
すが、発表終了後も該当セッションが終わるまで
はポスター前で待機して下さい。
5. 演者や所属などに変更がある場合は、受付の際に
お申し出下さい。



座長へのお願い

1. 座長は担当セッション開始時刻の30分前までに総合受付（国際ホールロビー1F エントランスホール横）終了後、座長受付にて（会館2F 展示ロビー1）登録を済ませ、開始10分前までにポスターの前で待機して下さい。
2. 担当セッションの進行に関してはすべて座長に一任致します。必ず予定時間以内に終了していただくようお願いします。なお、質疑応答はできる限り一演題ずつに対して進行していただきますようお願いいたします。
3. 不測の事態にて、座長の職務が遂行不可能であると判断された場合は、速やかに座長受付までご連絡下さい。
4. 発表の内容が抄録と大幅に異なる場合は、その場で厳重な注意を行っていただくとともに、建設的・指導的にセッションを進行していただきますようお願いいたします。

質疑応答について

質疑応答では、座長の指示に従って活発なご討議をお願いします。なお、質問をする場合には必ず所属と名前を告げ、簡潔明瞭に行ってください。

学会誌用原稿提出について

学会誌用原稿を作成し、学会1週間後の1月28日（月）14:00までにご提出下さい。会誌掲載により生涯学習ポイントが付与されますので、必ず期限を守って提出して下さい。
原稿作成要領につきましては、第58回近畿理化学療法学会ホームページに掲載しております。詳細はホームページをご確認下さい。また、原稿の書式フォーマットはホームページよりダウンロードできます。

会場への交通案内



鉄道最寄り駅から学会会場(奈良県文化会館)へのご案内

■ 近鉄奈良駅から

東改札口より、1番出口を出てそのまま東へ 徒歩約5分
(奈良県庁の手前、西隣です)

■ JR奈良駅から

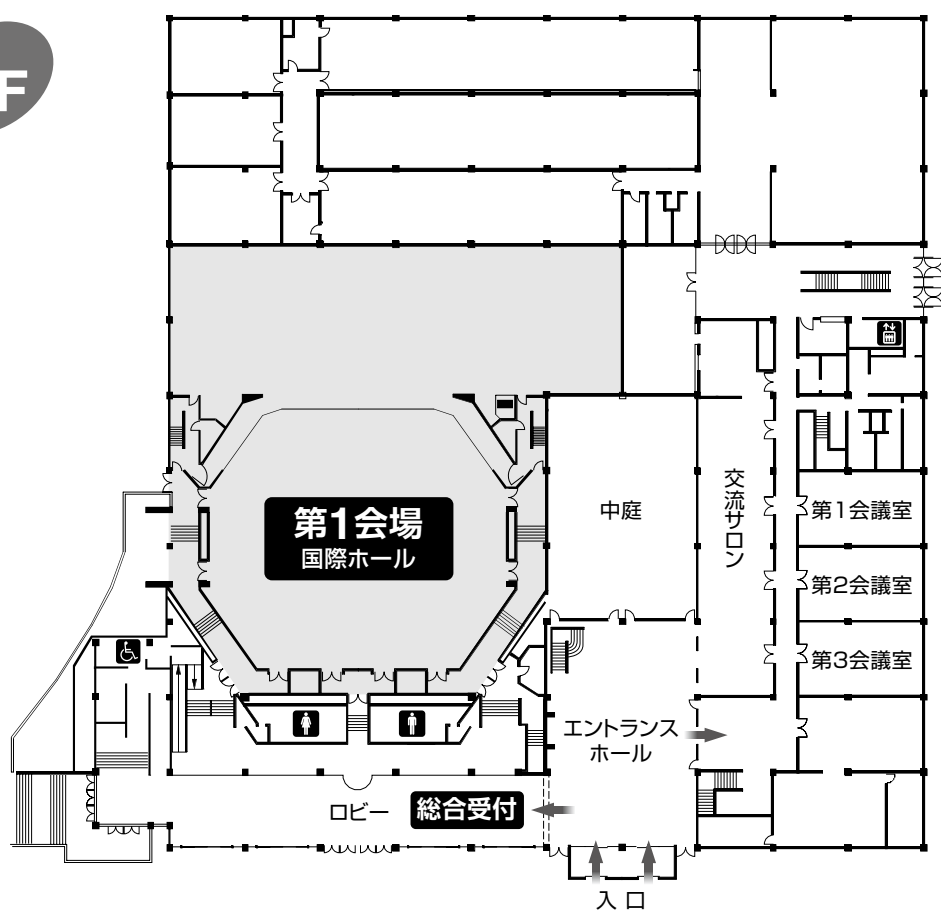
東出口バスターミナルから

「奈良交通／2系統／市内循環バス(外まわり)」に乗車し約10分

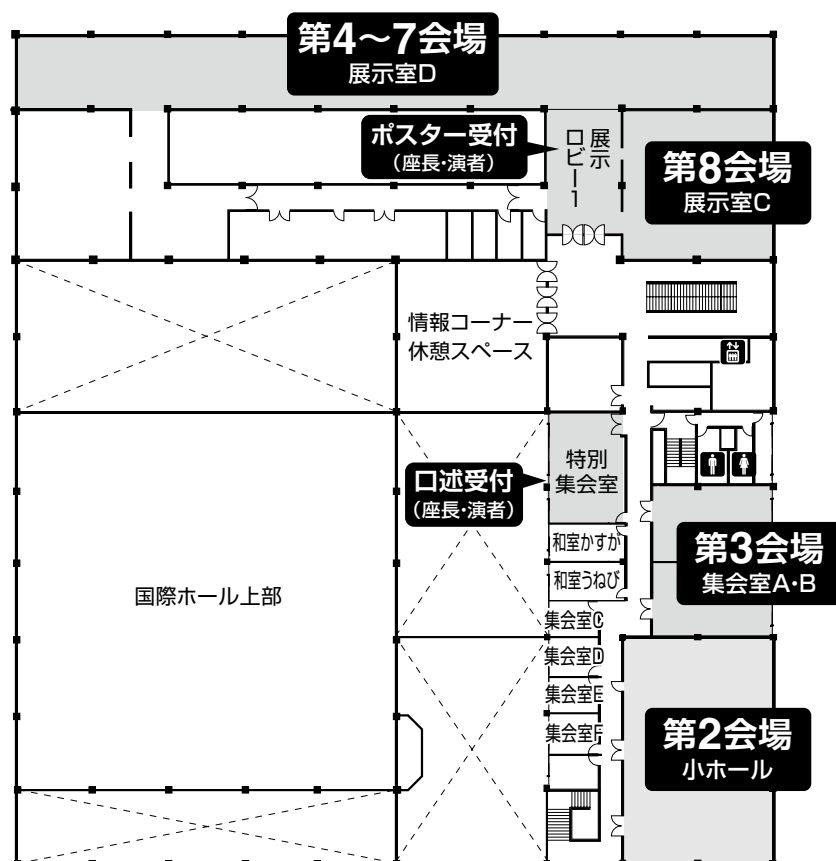
「県庁前」バス停下車 西へ徒歩約2分

会場案内

1F



2F



2019年 1月 20日(日) 奈良県文化会館

第1会場		第2会場		第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	第8会場	
1F 国際ホール		2F 小ホール		2F 集会室 A・B	2F 展示室 D					2F 展示室 C
9:00	9:00～ 開場・受付開始									
10:00	9:20～10:20 教育講演1 下肢の荷重関節を 力学的に考える ～まずは足元から～ 講師：橋本 雅至 座長：榮崎 彰秀	9:20～10:20 教育講演2 高次脳機能障害に 対する理学療法 up-to-date 講師：信迫 悟志 座長：和田 善行		9:00～12:10 <						

プログラム

1月20日(日)

第1会場 (奈良県文化会館 1F 国際ホール)

教育講演1 9:20～10:20

座長：榮崎 彰秀 (さくらい 悟良 整形外科クリニック)

下肢の荷重関節を力学的に考える ～まずは足元から～

橋本 雅至 大阪河崎リハビリテーション大学

基調講演 10:30～11:30

座長：石橋 睦仁 (高の原中央病院)

理学療法士の実践力 ～これから求められる実践力と課題～

半田 一登 公益社団法人日本理学療法士協会 会長

倫理セミナー 11:30～12:20

座長：門脇 明仁 (吉田病院)

精神科医からみたパワーハラスメント ～被害者と加害者にならないために～

上村 秀樹 奈良県総合医療センター 精神科

教育講演3 13:00～14:00

座長：増田 崇 (奈良県総合医療センター)

がん治療とリハビリテーション 現状と課題

城戸 顕 奈良県立医科大学附属病院 リハビリテーション科

シンポジウム 14:00～15:20

座長：徳久 謙太郎（友誼会総合病院）

理学療法士に求められるハンズオフアプローチ

S-1 急性期におけるハンズオフアプローチ
ー脳卒中を中心にー

野添 匡史 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科

S-2 回復期におけるハンズオフアプローチ

今田 健 社会福祉法人こうほうえん
法人本部 リハビリテーション統括部
錦海リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部

S-3 生活期におけるハンズオフアプローチ

石垣 智也 川口脳神経外科リハビリクリニック
畿央大学大学院 健康科学研究科

教育講演5 15:20～16:20

座長：田平 一行（畿央大学）

集中治療室における早期リハビリテーション

飯田 有輝 JA 愛知厚生連海南病院

教育講演2 9:20～10:20

座長：和田 善行（平成記念病院）

高次脳機能障害に対する理学療法 up-to-date

信迫 悟志 畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター

教育講演4 13:00～14:00

座長：中村 貴信（介護老人保健施設 ウェルケア悠）

PT Practice

～ボッチャで語る障がい者スポーツ～

片岡 正教 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科

教育講演6 15:20～16:20

座長：西田 宗幹（秋津鴻池病院）

訪問リハビリテーションにおける生活機能再建へのアプローチ

尾川 達也 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部
畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

基 調 講 演



理学療法士の実践力 ～これから求められる実践力と課題～

半田 一登 (ハンダ カズト)

公益社団法人日本理学療法士協会 会長

昭和41年以降、長い間理学療法士は回復期リハビリテーション的な業務、あるいは総合リハビリテーション医療の範疇での狭い範囲の業務に終始しました。しかし少子高齢社会の到来によって、理学療法士に求められる実践力は多様性を高めています。

平成18年の診療報酬改定で長い間の情眠は驚きの中で目を覚ましました。要するに高齢社会のために作為的に作られたリハビリテーションバブルが終焉を迎えたのです。そこで始まったのが疾患別リハビリテーションで、本会の分科学会誕生のきっかけになると共に理学療法士の実践力に大いに影響を与えました。しかし、診療報酬に類する疾患別理学療法の標準化ができておらず、結果的にエビデンスの乏しい理学療法になっている部分も否めません。

在院日数短縮は、急性期医療・回復期医療・生活期医療の役割に応じた病期別理学療法士の実践力を求めています。急性期理学療法の果たす役割は、早期離床・早期歩行を推進し、更なる在院日数の短縮を可能にすることです。回復期理学療法では、更なる質の向上を果たし実績指数向上に貢献できる理学療法を展開しなければなりません。また、生活期理学療法にあっては、一人一人の病歴を確認したうえで理学療法評価を実施し、それぞれに適した理学療法を実施しなければなりません。更に生活期にあっては、施設内理学療法・通所理学療法・訪問理学療法と多彩な環境での実践が必要となり、理学療法知識や技術だけでなく、説明能力やコミュニケーション能力、多様な管理能力が問われます。

高齢社会がもたらした更なる影響のひとつに、理学療法士の総合力があります。高齢患者ゆえの疾病の複合化や訪問理学療法という職場環境から、総合力のある理学療法士が求められているのです。現在、本会の生涯学習システムの検討を行っていますが「総合理学療法士」を如何に位置付けるのかも課題の一つになっています。また、もうひとつ総合理学療法士が求められている背景があります。それは18歳人口の激減による労働人口の不足問題です。生涯学習システムを立ち上げるときから、ゼネラリストの位置づけは大きな課題でしたが、ただ単に広い範囲の仕事ができるということではなく、高いレベルで広い範囲の実践力があるものにしたいと考えています。

そして何より、高齢社会がもたらした最たるものは予防理学療法でしょう。WCPTでは理学療法士業務をヘルスマネジメント・予防・介入・リハビリテーション・リハビリテーションと位置づけています。日本において大きく遅れていたヘルスマネジメントや予防理学療法が一気に進む環境となりました。しかし、この分野は自由競争の場であり、科学的裏付けに基づいた実践力のある者が生き残る世界だと思います。単なる体操の指導者では生き残ることは不可能です。

実践力とは、科学に裏付けされた理学療法をそれぞれの職場における役割りに応じ、患者や利用者の状況を見極めながら適切に提供できる力だと思います。

一般演題 プログラム

口述 プログラム

1月20日(日) 奈良県文化会館

口述セッション1 (セレクション演題) 14:00～15:20

第2会場 (2F 小ホール)

座長：生野 公貴 (西大和リハビリテーション病院)

O1-1 当院回復期リハビリテーション病棟入院患者における栄養障害、サルコペニア有症率の実態調査 (第2報)

福山 純史 社会医療法人愛仁会 尼崎だいもつ病院 リハ技術部 理学療法科

O1-2 訪問リハビリテーションにおけるホームエクササイズとしての大腿四頭筋に対する神経筋電気刺激の可能性 ―症例報告―

歌川 貴昭 関西学研医療福祉学院 理学療法学科

O1-3 脊髄小脳変性症に対するロボットスーツ HAL の短期効果

藤田 修平 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

O1-4 一過性睡眠制限における嫌気性代謝閾値時のエネルギー代謝・呼吸・循環指標の関連性について

大谷 信彰 白鳳短期大学 リハビリテーション学部 専攻科理学療法学科

O1-5 術前 COPD 患者に対して運動療法と吸気筋トレーニングの併用により横隔膜動態、肺機能、運動耐容能の改善を認めた1症例

水澤 裕貴 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

O1-6 動作指導を主とした短期間の介入により、自己管理能力の向上・呼吸困難感の軽減を認めた特発性肺線維症の一例

増田 朋絵 滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部

口述セッション2 13:00～14:00

第3会場 (2F 集会室 A・B)

[基礎／神経]

座長：大住 倫弘 (畿央大学)

O2-1 表在感覚刺激を与える部位の違いによる脊髄神経機能の興奮性の変化について

林 哲弘 医療法人社団石鎚会 田辺中央病院 リハビリテーション部

O2-2 スロートレーニング時における筋活動および酸素化動態の解析～多チャンネル表面筋電図と NIRS を用いて～

中野 佳樹 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

O2-3 超音波画像診断装置を用いたばね靱帯厚計測方法と信頼性の検証

田中 謙次 森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻,
医療法人 健生会 たつえクリニック

O2-4 立位ステッピングテストの運動学的解析と 足関節不安定性・足部内側縦アーチとの関係

岩根 浩二 JCHO 京都鞍馬口医療センター リハビリテーション科

O2-5 パーキンソン病患者の矢状面上での主観的姿勢垂直の偏倚について

本戸 龍 大阪医科大学附属病院 リハビリテーション科

O2-6 異なる速度条件が多系統萎縮症患者の歩行安定性に及ぼす影響

勝田 直也 大阪医科大学附属病院 リハビリテーション科

口述セッション3 14:00～15:00

第3会場(2F 集会室A・B)

[生活環境／内部障害]

座長：森本 信三(白浜はまゆう病院)

O3-1 運動教室実施によるプレサルコペニア・サルコペニアの リバート率、コンバート率について

今岡 真和 大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部,
大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科,
国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部, 認知予備力研究センター

O3-2 地域高齢者の栄養状態、身体活動がサルコペニアの要因に与える影響

福島 悠輔 医真会八尾リハビリテーション病院 理学療法科

O3-3 重複心疾患を持つ慢性期心不全者に対して訪問リハビリテーションによる 疾病管理が有効であった一症例

山口 浩貴 喜多野診療所 訪問リハビリテーション科, 結ノ歩訪問看護ステーション

O3-4 高齢慢性閉塞性肺疾患患者の歩行速度は身体活動量と関連している

田村 宏 市立芦屋病院 リハビリテーション科, 兵庫医療大学大学院 医療科学研究科

O3-5 多職種連携を意識し栄養療法と運動療法を併用することで ADL 改善に至った一症例

堀江 知穂 社会医療法人 愛仁会 高槻病院 技術部 リハビリテーション科

O3-6 模範的円背姿勢が呼吸機能および随意的咳嗽力に与える影響

武田 広道 訪問看護ステーション リハステージ, 畿央大学大学院 健康科学研究科

O4-1 前十字靱帯損傷のジャンプ着地受傷と足関節背屈角度の関係
—術前データからの考察—

福山 友見 第一東和会病院 リハビリテーション部

O4-2 距骨離断性骨軟骨炎に対し保存療法を行った1症例
—競技復帰に向けて—

水田 有樹 しばはら整形外科スポーツ関節クリニック

O4-3 足関節底屈時における Kager's fat pad の移動量の定量化の試み

片山 尚哉 大阪暁明館病院 リハビリテーション科, 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

O4-4 人工股関節全置換術後の WOMAC の改善に影響する術前因子について

渡邊 健斗 石川病院 リハビリテーション部

O4-5 全人工膝関節置換術後患者の2ステップ値と歩行能力との関係
—術前後での調査—

政田 純兵 市立奈良病院 リハビリテーション室

O4-6 大腿骨近位部骨折術後早期症例の年齢の差異による神経筋電気刺激療法の効果検証

杉森 信吾 平成記念病院 リハビリテーション課

ポスター プログラム

1月20日(日) 奈良県文化会館

ポスターセッション1 13:00～14:00

第4会場(2F 展示室D)

[運動器1]

座長：高木 啓至(大阪大学医学部附属病院)

- P1-1** 人工膝関節全置換術後患者における在院日数を左右する術前因子の検討
岡村 亮汰 医療法人仁寿会 石川病院 リハビリテーション部
- P1-2** Hybrid closed-wedge high tibial osteotomy 術後の歩行自立期間に与える影響
—術前因子についての検討—
柳原 亜紀 市立奈良病院 リハビリテーション室
- P1-3** 人工膝関節置換術術後患者の大腿周径と歩行機能の関係および
大腿周径関連因子に関する検討
三戸部 浩之 社会医療法人山弘会 上山病院 リハビリテーション科,
森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- P1-4** 全人工膝関節置換術後患者に対する後進歩行練習の即時効果の有用性について
～加速度計を用いて～
小池 一成 阪和第二泉北病院 リハビリテーション部, 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- P1-5** 関節リウマチ患者に対する人工膝関節全置換術後の歩行と家事動作獲得への試み
本田 丈歩 大阪回生病院 リハビリテーションセンター
- P1-6** 高位脛骨骨切り術術前後における下肢アライメントと足圧分布の変化
～ Hybrid HTO を施行した一症例について～
和田 拓弥 済生会滋賀県病院 リハビリテーション技術科
- P1-7** TKA5ヶ月後に残存していたエクステンションラグ改善への取り組み
～電気刺激を用いて～
北村 優友 JCHO 星ヶ丘医療センター
- P1-8** 人工膝関節全置換術後の急性期症例に対し HAL-SJ を使用した経験
廣津 昂 京都民医連中央病院 リハビリテーション部

[神経1]

座長：植田 耕造(地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター)

P2-1 脳卒中片麻痺患者における長下肢装具のカットダウン時期と下肢荷重率との関連

松江 愛奈 社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院 リハ技術部

P2-2 急性期での歩行再建を目指し長下肢装具歩行訓練を実施した右視床出血患者

高橋 慎太郎 京都岡本記念病院 リハビリテーション科

P2-3 両側足関節底屈拘縮と褥瘡を有する四肢麻痺患者への装具療法の試み
～ウルトラフレックス継手とダブルクレンザック継手の併用～

庄司 和行 西宮協立リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科

P2-4 胸髄損傷者に対する車椅子駆動向上と床からの移乗動作獲得の試み

巖田 将人 大阪回生病院 リハビリテーションセンター

P2-5 腰部脊柱管狭窄症の術後に残存した足関節背屈機能障害に対し
ウォークエイドを使用することで立位バランスが向上した1例

蛭子 拓真 京都地域医療学際研究所がくさい病院 回復期リハビリテーション部

P2-6 脳卒中片麻痺患者の足関節底屈筋に対する機能的電気刺激と
課題指向型練習の併用による即時的影響
～1症例による予備的検討～

宮野 佳那 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部

P2-7 歩行立脚終期の停滞により特徴的な遊脚代償パターンを呈した
脳卒中片麻痺患者への足関節底屈筋に対する機能的電気刺激の試み

今井 千紘 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部

P2-8 慢性期脳卒中患者の TerminalSwing での過度な膝関節屈曲に対して
機能的電気刺激が与える影響について

浦澤 純一 坂本診療所 療法部

P3-1 地域包括ケア病棟開設半年で生じた問題に対して対策チームの取り組み

福島 隆久 医療法人 宝生会 PL 病院 リハビリテーション科

P3-2 地域包括ケア病棟低栄養患者に対する集団リハビリテーションの効果
～運動器疾患に着目して～

中本 侑甫 尼崎だいもつ病院 リハ技術部 理学療法科

P3-3 当院における体操教室の効果検討
～アンケート調査を中心に～

玉置 昌孝 関西医科大学くずは病院 リハビリテーションセンター

P3-4 ロコモ度テストが身体活動・運動習慣の行動変容ステージに及ぼす影響と、
ヘルスリテラシーとの関連について

原田 純 奈良リハビリテーション病院 リハビリテーション部

P3-5 2本のポールを使用する姿勢改善特化型リハビリウォーキング(川原ウォーキング)の、
反張膝症例の姿勢及び歩行の改善効果

泉 清美 一般社団法人 健康寿命世界一

P3-6 近隣資産を活かし住民協働のウォークイベントを通じた健康づくりの取り組み

高井 逸史 大阪経済大学 人間科学部 人間科学科

P3-7 地域包括支援センターにおける理学療法士配置の必要性

松田 晴子 田原本町社会福祉協議会 地域包括支援センター

P3-8 学校保健での学校医と連携した新たな運動機能検診

寺山 佳佑 医療法人社成会 田村クリニック リハビリテーション科

P4-1 PDCA サイクルにおける OJT を用いたセラピストの教育の効果

西村 瞬 医療法人 双葉会 西江井島病院 リハビリテーション科

**P4-2 理学療法士の立場から考える思いやりとは
～アンケートを通して見えた結果から～**

田中 好 公立八鹿病院

P4-3 地域在住人工膝関節全置換術患者に対する長期的な術後成績

大西 邦博 ツカザキ病院 リハビリテーション科, 神戸大学大学院 保健学研究科,
吉備国際大学 保健福祉研究所, 広島大学大学院 工学研究科

**P4-4 糖尿病教育入院患者における理学療法介入効果
～多発神経障害の有無とバランス機能に着目して～**

井上 美里 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

**P4-5 動画視聴のためタブレットを用いた人工股関節全置換術後の
患者教育に対する満足度調査**

西村 美希 滋賀県立総合病院 リハビリテーション科

**P4-6 在宅酸素療法管理における家族指導が運動時低酸素血症の予防に寄与した
認知機能障害を呈する非特異性間質性肺炎の一例**

崎田 佳希 関西電力病院 リハビリテーション部

**P4-7 平成 30 年の報酬改定を踏まえた介護老人保健施設のリハビリ部門の
運営戦略とその考察**

穴田 周吾 介護老人保健施設 若山荘

P4-8 当院における ADL 維持向上等体制加算認可取得に向けた取り組みと成果

松岡 森 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 リハビリテーションセンター

[基礎1]

座長：木下 利喜生 (和歌山県立医科大学みらい医療推進センター)

P5-1 3軸加速度計を用いた歩行立脚後期から前遊脚期における股関節モーメントの推定

桂 智哉 堺市立総合医療センター リハビリテーション技術科

P5-2 Python を用いた片麻痺患者一症例の筋電図データ解析
ーデータ取り込みから可視化までー

中村 友太郎 独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

P5-3 超音波画像診断装置を用いた内外旋を加えた外転運動課題時の
小殿筋筋厚変化率について

福田 大輔 東大阪病院 リハビリテーション部, 森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科

P5-4 肩関節肢位の違いによる肩甲下筋等尺性収縮時の
前上腕回旋動脈血流速度変化についての検討

兼岩 淳平 東大阪病院 リハビリテーション部, 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

P5-5 足関節の肢位の違いが、スライダーボードを使用した
膝関節自動関節可動域練習時の筋活動に与える影響

川崎 由希 医療法人寿山会 喜馬病院 法人リハビリテーション部

P5-6 五本指ソックスが静的・動的バランスに与える影響

松本 凱貴 永山病院 リハビリテーション部

P5-7 小趾外転筋の表面筋電図貼り付け領域の検討

兵頭 勇太郎 金沢整形外科クリニック

[運動器2]

座長：森 憲一 (一般社団法人 MSEP、大阪回生病院 リハビリテーションセンター)

P6-1 超音波画像診断装置を用いた little leaguer's shoulder 早期発見の可能性

相良 優太 池田整形外科 リハビリテーション科

P6-2 肩関節周囲炎の治療期間長期化に関連する要因についての検討

内藤 要 医療法人社団 村上整形外科クリニック リハビリテーション科

- P6-3** 上腕骨近位端骨折の術後に重度の関節拘縮を起こした症例に
上腕骨解剖頸軸回旋運動を実施し結髪動作の改善を認めた一例
正意 敦士 医療法人社成会 田村クリニック リハビリテーション科
- P6-4** 結帯動作に必要な肩甲骨周囲筋の筋力について
白井 孝尚 医療法人寿山会 喜馬病院
- P6-5** 外果骨折、前距腓靭帯損傷患者に対し運動器エコーを用いて
評価・治療を行った1症例
古賀田 万典 阪田整形外科リハビリクリニック
- P6-6** 右立脚終期における母趾側での蹴り出し獲得に母趾 MP 関節屈曲筋力強化が
有効であった長母趾屈筋腱切離術後の一症例
好井 直輝 神戸マリナース厚生会病院 リハビリテーション科
- P6-7** 右立脚相での右横足根関節の回内が不十分なために歩行の実用性が低下した
右距骨開放性脱臼骨折・右第5中足骨骨折の一症例
戎 智史 名谷病院 リハビリテーション科
- P6-8** 有痛性踵パッドを引き起こす要因と疼痛の解釈
—後足部の過回内と足関節背屈制限が原因であった一症例—
堀内 奈緒美 京都下鴨病院 理学療法部

ポスターセッション7 14:00～15:00

第5会場(2F 展示室D)

[神経2]

座長：中村 潤二(西大和リハビリテーション病院)

- P7-1** 視覚情報の遮断と麻痺側足底面及び手掌面からの体性感覚入力
pushing に対して効果的であった一症例
仲見 仁 大阪警察病院 リハビリテーション技術科
- P7-2** Pushing 現象を呈する急性期脳梗塞患者に対して視覚遮断下で
運動療法を施した一症例
大倉 一紀 京都岡本記念病院
- P7-3** 広範囲の脳梗塞に対して、機械的血栓回収療法を行った一症例
—急性期における関わり—
北村 昂大 済生会滋賀県病院 リハビリテーション技術科

P7-4 合併症により予後予測が難渋した片麻痺患者に対する理学療法経験

森口 八郎 洛和会音羽病院 リハビリテーション部

P7-5 慢性期脳卒中片麻痺患者に対し低速反復起立練習を付加した下肢機能および歩行能力への効果

小栗 拓馬 平成記念病院 リハビリテーション課

P7-6 皮質橋網様体路障害患者のステップ動作時の筋活動

松下 翔 京都きづ川病院 リハビリテーション室

P7-7 難治性てんかん術後における一症例
～補足運動野の機能解剖学面からの考察～

和田 紘輝 奈良県立医科大学付属病院 医療技術センター リハビリテーション係

P7-8 パーキンソン病によるすくみ足に対して蛇行線を視覚的 cue として利用することで改善が見られた一例

沢田 岳士 医療法人 錦秀会 阪和第二泉北病院 リハビリテーション部

ポスターセッション8 14:00～15:00

第6会場 (2F 展示室 D)

[生活環境2]

座長：中村 竹男 (訪問看護・リハステーションラヴィー)

P8-1 当院短時間通所リハビリテーション開設から7年の利用者動向

望月 真 中島整形外科 通所リハビリテーション あおいとり

P8-2 通所リハビリテーションにおける転倒予測指標の検討
～活動範囲別からみた身体機能と転倒の関係について～

上田 翔平 医療法人 清翠会 牧病院 デイケアセンター

P8-3 通所リハビリテーション利用者の要介護度の改善に対する意識についてのアンケート調査

山本 一平 中島整形外科 通所リハビリテーション あおいとり

P8-4 オーラルフレイルと身体機能・主観的健康感の関連性

重留 美咲 介護老人保健施設しんあい リハビリテーション部

P8-5 胸椎圧迫骨折後の腰背部痛による破局的思考に対する通所リハビリテーションでの取り組み

伊藤 健 医療法人社団 紀洋会

P8-6 人工膝関節全置換術後患者の活動・参加を目指した理学療法の試み

井口 奈保美 大阪回生病院 リハビリテーションセンター

P8-7 安定期 COPD 患者に対する HOT 導入の身体活動量とその関連因子への影響

野村 知里 北野病院 リハビリテーションセンター

ポスターセッション9 14:00～15:00

第7会場 (2F 展示室 D)

[内部障害1]

座長：山中 順子 (近江八幡市立総合医療センター)

P9-1 AECOPD による易疲労性に対して受動的立位を用いた1症例
～姿勢における力学的変化に着目して～

赤川 憲次 公立豊岡病院 リハビリテーション技術科

P9-2 COPD を合併した腹部大動脈人工血管置換術に対して術前運動療法が
奏功した一症例

吉田 浩実 奈良県総合医療センター リハビリテーション部

P9-3 重症心不全患者に対して早期から Pre-training を導入し、
低負荷・高頻度で介入した1症例

吉川 峻介 大阪府済生会泉尾病院 リハビリテーションセンター

P9-4 慢性疼痛による長期臥床から離床定着まで改善した症例
～疼痛の原因に着目して～

坂野 孝義 わかくさ亀岡リハビリテーション病院 療法課

P9-5 生体腎移植術後患者に対する理学療法が与える影響
～体組成・筋輝度・筋力に着目して～

山田 直矢 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P9-6 回復期の腎不全重複高齢患者に対する運動療法の効果を検討した一例

米田 哲也 愛仁会リハビリテーション病院 理学療法科

P9-7 胸部大動脈瘤と化膿性脊椎炎を罹患した盲腸癌患者に対し B-SES を使用し、
下肢骨格筋機能を維持できた症例

丸本 翔馬 愛仁会高槻病院 技術部 リハビリテーション科

P9-8 腹部大動脈瘤に対する外科的手術前後での運動機能の変化 (pilot study)

谷車 奨 奈良県総合医療センター リハビリテーション部

P10-1 大腿骨近位部骨折受傷後の手術方法の違いで膝痛の有無、在院日数に差がでるか

福本 祐介 大阪暁明館病院 リハビリテーション科, 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

P10-2 THA 後患者における JHEQ と身体運動機能の1年間の推移

多田 周平 大阪大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P10-3 膝関節伸展制限を認める変形性膝関節症患者に運動器超音波検査器を用いて内側半月板の動態を評価しながら治療を実施した一症例

中村 太志 医療法人薫風会 西川クリニック

P10-4 半膜様筋の収縮が膝後方関節包を引き出す機能的肢位の検討
～超音波診断装置を用いた検討～

小林 駿也 順和会 京都下鴨病院 理学療法部

P10-5 心不全のため運動制限を有する大腿骨近位部骨折患者の跛行に対して律動的な外乱負荷による立位荷重練習が奏功した一症例

松尾 朱莉 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部

P10-6 人工股関節全置換術後患者に対する全身振動トレーニングを用いた介入効果の予備的研究

長島 健太郎 大阪急性期・総合医療センター リハビリテーション科

P10-7 大腿骨頸部骨折患者の掃除動作
～ COPM により戦略を立案し QOL 改善を得た一症例～

酒井 宏介 互惠会 大阪回生病院 リハビリテーションセンター

P10-8 高齢入院運動器疾患患者における
退院時 Functional Independence Measure・在院日数と多剤内服の関連

桑田 一記 貴志川リハビリテーション病院 リハビリテーション部

P11-1 女性骨盤底トレーニングの効果と指導回数との関係

廣瀬 藍里 第一東和会病院 リハビリテーション科, 第一東和会病院 女性泌尿器科,
第一東和会病院 婦人科

P11-2 骨盤底筋群と腹横筋の同時収縮能に対する超音波バイオフィードバック療法の即時効果

井上 花奈 社会医療法人有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部

P11-3 脊椎圧迫骨折患者における退院後の腰痛再発要因の検討(第2報)

前田 貴基 大阪明館病院 リハビリテーション科, 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

P11-4 熱傷患者に対する医師、看護師と連携した早期理学療法の一症例

齋藤 秀晟 奈良県立医科大学附属病院 医療技術センター リハビリテーション係

P11-5 両下腿切断後、段差昇降獲得に至った血液透析患者の一症例

山崎 勇人 井上病院 リハビリテーション科

**P11-6 高校柔道における障害部位の特徴
—経験年数に着目した考察—**

宮代 大地 松本病院 リハビリテーション科

**P11-7 野球選手における肘関節外反ストレスと前腕屈筋群の機能との関連性
—超音波検査装置を用いて—**

野田 逸誓 医療法人Nクリニック

P11-8 医療従事者の腰痛発生に関わる身体機能の検討

北川 崇 東大阪病院 リハビリテーション部

P12-1 TOYOTA 歩行支援ロボット「ウェルウォーク」が右視床出血患者の歩行能力とTUG、平均最大荷重量に及ぼす影響

光山 功展 社会医療法人 平成記念会 平成まほろば病院 リハビリテーション課
ロボットプロジェクトチーム

P12-2 慢性期脳卒中片麻痺患者における Welwalk の歩行に対する影響

西山 章太 平成記念病院 リハビリテーション課

P12-3 ウェルウォーク WW-1000 での歩行訓練から移乗動作自立に至った症例ーアシスト機能に着目してー

宮城 麻友子 洛西シミズ病院 リハビリテーション科

P12-4 頸椎症性脊髄症により歩行障害を呈した一症例に対する体重免荷式トレッドミル歩行トレーニングによる治療経験

岡田 紗也花 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

P12-5 Honda 歩行アシストを用いたステップモード、追従モードにおける挟み角対称度の比較検討

中畠 彪至 社会医療法人 平成記念会 平成まほろば病院 リハビリテーション課
ロボットプロジェクトチーム

P12-6 高齢対麻痺症例に対する急性期病院における Hybrid Assistive Limb[®]の使用経験～装具歩行へ移行することができた1症例～

豊浦 尊真 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 リハビリテーションセンター

P12-7 pushing を呈した脳損傷後片麻痺患者一症例での装着型ロボット医療機器を用いた歩行機能改善の試み

西本 和平 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部、京都橘大学大学院 健康科学研究科

P12-8 重度片麻痺と注意障害を呈した脳梗塞一症例に対する歩行練習の工夫

吉田 圭佑 JHCO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

P13-1 脳幹梗塞左片麻痺患者に対する起居動作への介入
～急性期から肩甲帯・体幹機能に着目して～

大谷 裕理 姫路中央病院 リハビリテーション科

P13-2 復職を見据え麻痺側肩甲帯に着目し歩行能力の改善を目指した片麻痺患者の一症例

二宮 愛里 みどりヶ丘病院 リハビリテーション部

P13-3 前庭・脊髄小脳出血後の目眩を伴うふらつきに対して、
頭頸部・眼球運動を中心に介入し、早期の職業復帰に至った一症例

月岡 裕司 第二協立病院 理学療法科

P13-4 既往歴にうつ病を有する、小脳梗塞患者に対する理学療法の試み
～小脳症状の改善と運動学習に着目して～

高橋 郁美 大阪回生病院 リハビリテーションセンター

P13-5 AKA- 博田法が急性期脳卒中患者の運動機能に及ぼす影響

藤原 博道 岸和田徳洲会病院 リハビリテーション科

P13-6 呼吸不全で気管切開となった重症筋無力症患者に対し、
腹部重錘負荷を用いて呼吸筋訓練を行った一症例

蜷川 晃希 大阪医科大学附属病院 リハビリテーション科

P13-7 回復期における重症筋無力症を併存した視床出血患者の理学療法経験

成原 徹 関西電力病院 リハビリテーション部

P13-8 脳性麻痺児の体力評価における新体力テストの試行
(軽度の痙直型片麻痺児に対して)

猪谷 俊輝 社会福祉法人芳友にこここハウス医療福祉センター リハビリテーション科

P14-1 救命救急センター入室患者に対する早期離床が退室時アウトカムに与える影響について

坂井 寛充 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P14-2 早期離床における身体活動と精神活動の重要性と連関～緊急心臓バイパス手術当日離床開始の1例から～

上村 将太 吹田徳洲会病院 リハビリテーション科

P14-3 救命救急センターにおける入院時の重症度評価が離床達成までの期間に与える影響について

木本 祐太 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

P14-4 重複障害患者に対して理学療法を実施し自宅退院に至った一症例―病態評価と予後予測の重要性―

尾崎 紘平 京都市立病院 リハビリテーション科

P14-5 無菌室内における低床段差昇降運動にて下肢筋力を維持できた悪性リンパ腫の一例

山本 浩平 関西電力病院 リハビリテーション部

P14-6 当院における消化器癌術後のリハビリテーション介入日数が長期化する関連因子の検討

山本 智也 滋賀県立総合病院 リハビリテーション科

P14-7 周術期がん患者における10m 最大歩行速度と6分間歩行距離の関係

倉持 右京 大阪鉄道病院 リハビリテーション科

P14-8 尿失禁を呈した前立腺全摘出術後患者の仕事復帰の試み～職業特性を考慮したアプローチ～

太田 尚吾 大阪回生病院 リハビリテーションセンター

P15-1 50%収縮強度のピンチ動作中における尺沢への抑制手技の経穴刺激理学療法が脊髄神経機能に与える影響

田坂 悠貴 医療法人社団石鎚会 リハビリテーション部

P15-2 運動イメージ中の脊髄前核細胞興奮性の個体差を考慮した数理モデル～階層ベイズモデルとマルコフ連鎖モンテカルロ法を用いて～

山本 昌樹 姫路獨協大学 医療保健学部 理学療法学科

P15-3 心肺運動負荷試験前の食事摂取状況と運動耐容能の関連性

関谷 賢幸 白鳳短期大学 専攻科 理学療法学科課程

P15-4 一過性の精神的ストレスと嫌気性代謝閾値時のエネルギー代謝・呼吸・循環指標の関連性

笠井 佑哉 白鳳短期大学 専攻科 理学療法学科課程

P15-5 項目反応理論を用いた主体的学習態度の尺度分析～項目反応曲線の識別力と困難度パラメータによる分析～

永禮 敏江 姫路獨協大学 医療保健学部

P15-6 立ち上がり動作による下肢筋の筋持久力試験の開発

高田 寛彬 大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科, 畿央大学大学院 健康科学研究科

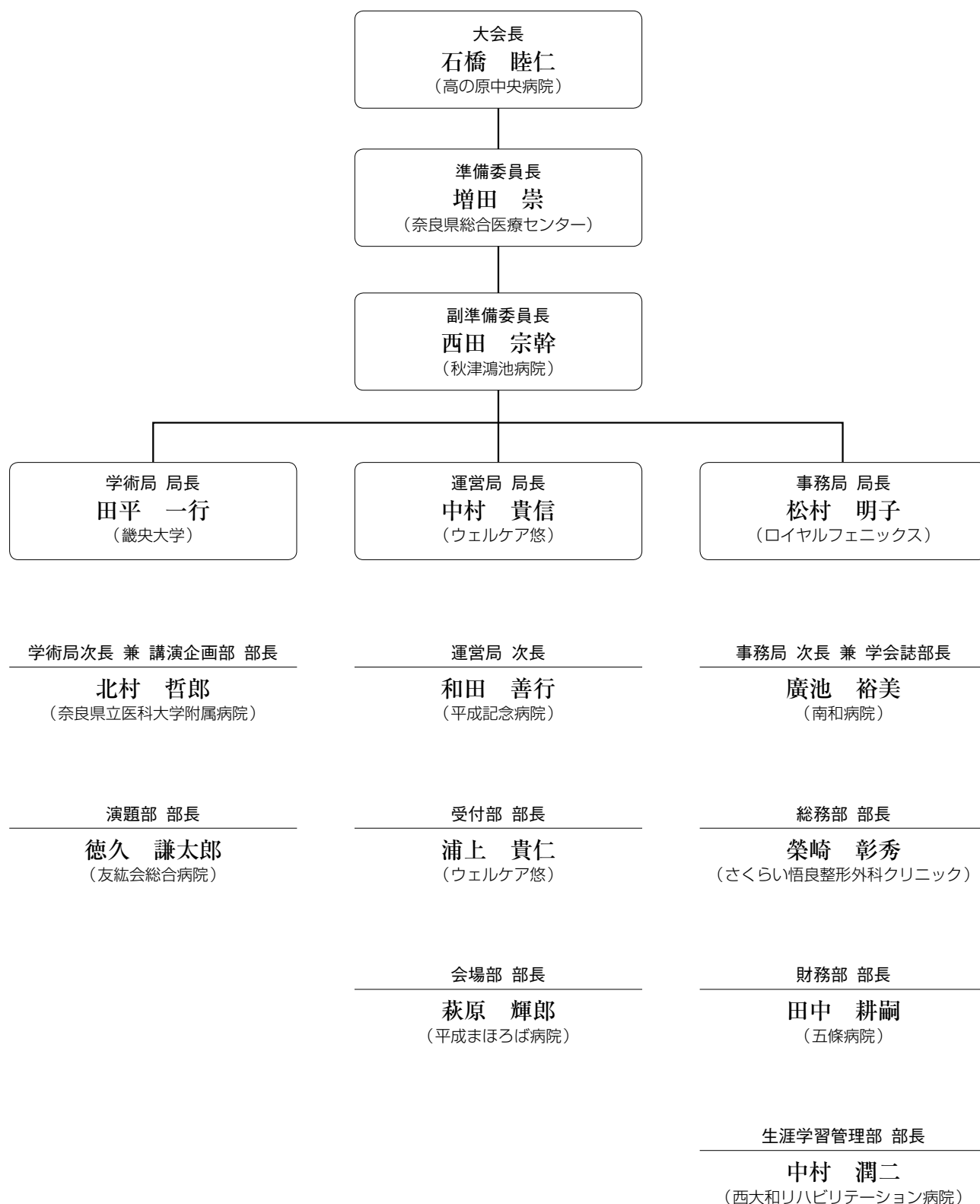
P15-7 介入効果を追跡評価するための手指筋力測定法の信頼性検証

木内 隆裕 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

P15-8 エンドフィール提示装置による関節終末抵抗の再現性

河村 廣幸 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

大会組織図



第58回 近畿理学療法学会

大会長：石橋 睦仁

事務局：第58回近畿理学療法学会 大会事務局
〒639-0226 奈良県香芝市五位堂三丁目599-2
ホワイトタウン301号室
公益社団法人 奈良県理学療法士協会
E-mail：narapt@outlook.jp

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>

知れば
知るほど 奈良 はおもしろい



奈良県マスコットキャラクター

せんとくん

©NARA pref.

<http://www.pref.nara.jp/>

第58回近畿理学療法学術大会事務局

〒639-0226 奈良県香芝市五位堂三丁目599-2

ホワイトタウン301号室

公益社団法人 奈良県理学療法士協会

TEL/FAX:0745-78-2280

E-mail:narapt@outlook.jp